

# 令和6年度 授業改善プラン 学力向上を図るための全体計画

東京都北区立岩淵小学校

## 令和6年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析

|     |   |
|-----|---|
| 国語  | 全体的に基礎・基本における躓きが見られる。学年が上がるにつれて課題が大きくなることから、低学年のうちから、漢字や語彙の習得を丁寧に行うとともに、繰り返し復習を行ったり、日常的に文字の読み書きを多く取り入れていく必要がある。また、「主体的に取り組む態度」と「知識・技能」「思考・判断・表現」との相関関係も見られることから、読書活動や、自分の考えや記録文等を書く活動、小集団での話し合い活動など、児童が言語に触れることを楽しむ場も多く設けていく。 |
| 社会  | 世界や日本の国土、都道府県の様子などで目標値を下回っており、基礎的な知識・技能の定着を図る必要がある。朝学習や授業時間の中で、クイズやゲーム的な要素も取り入れ、楽しみながら繰り返し取り組ませていく。「自然災害から暮らしを守る一水害」のように荒川フィールド学習で取り組んでも全国平均を下回っている分野もあり、実体験としての学びを一般化し、知識・技能として定着させていく必要がある。                                 |
| 算数  | 学年ごとに課題となる項目が異なるため総じて難しいが、四則計算の躓きからそれを活用する問いに答えることができない傾向にある。このことから、日常的に四則計算に取り組ませ、十分な定着を図る活動が求められる。また、学年が上がるごとに計算も高度になっていくことから、計算を「確実に」「早く」できるようにマス計算などで練習できる時間を設定する必要がある。   |
| 理科  | 内容別に見ても、観点別に見ても、目標値、区平均に届かないものが多い。問題解決型のステップに則り、何のための実験、観察かをしっかり意識づけるとともに、実験の手順や意図について押さえられるようにすることが大切である。また、予想や考察では、その根拠を挙げるようにすることで、自分でしっかり思考したり、表現したりする力を付けていく。理科的な語句については、確認、復習の機会を増やしたり、教室掲示したりして定着を促すことが必要である。          |
| 外国語 | 身近な表現(食べ物・スポーツ・文房具・数字など)の聞く力は概ね目標値を達成している。一方で、小文字のアルファベットの識別、例文を参考にしながら簡単な語句や基本的な表現を用いた文章を書く力は、全国正答率を大きく下回っている。そのため、日頃の授業やモジュールで、既習単語や表現を使った単語や、短い文章を書く時間を設けることで、「書くこと」の力の定着につなげる。  |

## 本校の教育目標

- よく考える子
- ◎思いやりのある子
- たくましく生きる子

## 本校が児童に育成したい力

- い…いいあいさつ いい返事(規範意識)
- わ…わたしも あなたも 大切(人権感覚)
- ぶ…ふれあい 伝え合い なかよく(協力・協働)
- ち…力いっぱい チャレンジ(自己肯定感・自主自立)

## 学力向上にかかわる経営方針

- ①学力規律の徹底  
学習環境の整備
- ②基本的学習内容の定着、  
読み取りを考え伝え合う力の向上  
を目指した授業改善
- ③語彙を増やし、豊かな表現力を育てる  
言語活動の充実  
(日本語学級との連携)

## 校内における学力向上推進体制

月1回の企画委員会にて学力向上に向けての取り組み状況の進捗を確認し、成果と課題を振り返る場とする。

## 本校の授業改善に向けた視点

| 指導内容・指導方法の工夫  | 教育課程編成上の工夫  | 校内における研究や研修の工夫   | 評価活動の工夫  | 家庭や地域社会との連携の工夫  |
|---|---|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習規律を徹底し、全教職員で共通理解を図り、指導にあたる。</li> <li>○個の気付きを広げる声かけを工夫し、児童が考えを伝え合い、学び合える場を設定していく。</li> <li>○学力パワーアップ講師等を活用し、個別指導の充実を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○水曜日に15分間のいわぶちタイムを設け基礎・基本の定着に向けた時間(算数)を推進する。(1～4年)(※56年は木曜日)</li> <li>○金曜日に15分間のNIEタイムを設け、各学年の発達段階に合わせた取り組みをし、基礎学力・読解力・書く力の伸長を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○荒川を中心にして、体験活動を重視した環境学習を計画、実施することで、自分の思いや考えをもち、協働して課題解決しようとする力を育む。</li> <li>○低中高で授業を見合うことで、開かれた学級をつくるとともに、授業力のアップを目指す。</li> <li>○毎月、企画会議と並行してでOJTの場を設け、指導方法等の研修をし、若手教員の授業力向上を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○算数の基礎・基本の習得状況を年に3回計算50問テストを行う等、定期的に確認し、指導の改善を図る。</li> <li>○保護者・児童アンケートを実施し、あわせて学校評議員の学校評価、全教育活動と児童の進捗状況評価を実施する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境教育・読書活動・昔遊び等の学習場面で外部人材を積極的に活用する。</li> <li>○学校だより、学校ホームページ、保護者会、個人面談、PTA運営委員会等を通して、学力向上の取り組みについて情報提供を行う。</li> <li>○家庭と連携し、予習や復習等の学習課題適切に課し、「学年×10分」の家庭学習を</li> </ul> |

呼びかけ、家庭学習の定着を図る。